

2016年2月

# 一般社団法人 日本開発工学会

## 第15回ビジネス・イノベーション研究会のご案内

研究会長（主査） 矢本成恒  
研究会副主査 大橋克巳、原岡和生

平素より大変お世話になっております。第15回の研究会をご案内いたします。

今回は、ICT や医薬品分野を取り上げ、環境変化（業界や技術など）とその課題について考察します。洗足音楽大学でITシステムに従事している特任助教佐藤圭一先生と野口和馬氏からは、IT環境や技術の変化とその課題を解説していただきます。また、アストラゼネカでMR（医薬情報担当者）営業部所長の仲川慎一氏からは、医薬品業界の営業組織の変化とその課題（特にサービス提供型の営業）を解説していただきます。

みなさま奮ってご参加ください。

★ご出席いただける方は、資料と会場の関係から、以下URLにお名前のご記入をお願いします。

<https://kan.ji.kodama.com/note.aspx?ac=tx8jerpsst9g7pbs>

（会場の収容人数と資料準備の確認のためぜひご記入をお願いします）

### 1. 開催概要

- ・日時：2016年3月11日（金）18時30分から21時
- ・場所：中央区立産業会館 第二集会場
- ・住所：東京都中央区東日本橋2-2-4
- ・地図：<http://www.chuo-sangyo.jp/access/access.html>
- ・当日参加費 1000円（会場費・コピー代等です。残額は学会にプールします）  
学会会員および非会員いずれからも参加費を頂戴いたします。どうぞご了解をおねがいいたします。
- ・終了後に1時間程度の簡単な懇親会を予定しております。ぜひご参加ください。

### 2. 研究発表

（1）18時30分から19時15分予定（発表約25分＋質疑応答約20分）

（テーマ） 「ネットワーク・サーバ機器の仮想化に伴うシステム構成の変化—仮想と現実の狭間に居る我々—」

（発表者） 洗足学園音楽大学IT統括部 野口和馬

（略歴）

東海大学中退後、沖縄でダイビングのインストラクターや、紙、ネットを問わず多種多岐の広告代理店にて営業経験を積む。所属していた企業が上場したことをきっかけに、ITインフラエンジニアに転向。新聞、銀行、病院、通信、メーカーといった様々な現場でエンジニアとしての知見を積み、培った能力と経験を生かすべく現職に就いた。

（要旨）

仮想化といったテクノロジーの進化はIT業界での影響に留まらず、社会構造にすら影響を与える状況となりつつある。この社会構造の変革に対しては受け入れる以外の選択は困難であるが、観察することで効果的な対処や検討をすることはできる。本発表は仮想化テクノロジーの進化過程を詳細に観察することにより、現在、我々が目の当たりにしている社会構造の変革を評価し、実際の学校法人洗足学園での事例を元に、将来的に想定できる課題を考察する。

(2) 19時15分から20時予定(発表約25分+質疑応答約20分)

(テーマ) オンラインコミュニケーション上情報の発信と集約の経緯と現状

(発表者) 洗足学園音楽大学特任助教 佐藤圭一

(略歴)

東海大学大学院情報通信工学専攻修了、ソニーイーエムシーエス(株)にて複数のコンシューマ電気製品の研究、開発、設計、製造業務に携わる。同時に個人研究としてコミュニケーションサーバ、情報中継に興味を持ち、Webアプリケーションベースの複数のサイトを長年運営している。

(概要)

ネットワーク技術の普及に伴い、マスメディアに頼らず、ユーザーが直接情報を発信できるようになってから久しいが、ユーザー発信情報の集約や目的、およびベースとなるプラットフォームは日々変遷してきている。本発表はインターネット普及前から、現在に至るまで、プラットフォームベースでのユーザー情報のピンギングを概説し、現状の傾向と課題を考察する。

(3) 20時10分から20時55分予定(発表約25分+質疑応答約20分)

(テーマ) 医療用医薬品の営業組織の課題についての考察

(発表者) アストラゼネカ(株) 営業本部 循環器・代謝領域 関越営業部 栃木2課 所長 仲川慎一  
名古屋商科大学大学院マネジメント研究科教授 / イノベーション経営研究所代表 矢本成恒

(略歴)

・仲川慎一: 1990年ICIファーマ(現アストラゼネカ)入社後、札幌市、函館市、旭川市にてMR(医薬情報担当者)としてエリアリーダー等を経て、2003年から営業所長として宮城県・岩手県、札幌、群馬の担当を経て、現在は栃木県の営業責任者。2016年3月名古屋商科大学大学院マネジメント研究科(MBA)修了見込み。

・矢本成恒: 博士(工学)・中小企業診断士。NTT経営企画部門担当部長、コンサルティング会社役員を経て現職。研究ではイノベーション・マネジメント、実務では製造・IT・テレビ企業の新規事業の経営コンサルティングが専門。平成23年度東京商工会議所企業変革プログラム専門家アドバイザー。本学会理事・編集委員・本研究会主査。

(概要)

膨張を続ける国内医療費を背景に、医薬品企業は利益率を下げ、固定費抑制等の見直しを進めている。加えて医薬品処方も後発(ジェネリック)医薬品へのシフトが進んでおり、MRに期待される業務は、従来のShare of Voice(営業宣伝量による売り上げ確保を狙う手段)による販売拡大から、専門性を高めた個別化医療に対応するサービス提供へと移行している。また、その手段についても、ITを駆使したWeb・Mail・SNS等を用いた情報提供活動、コールセンター設置、他社契約営業担当者の活用など多岐に渡っている。

本発表では、これらMRを取り巻く現在の日本の医薬品業界の動向を解説し、その事例から医療サービス提供型の営業組織の課題(医療施設規模に合わせた配置、専門診療科領域に特化した配置、一人当たりのカバー率を上げる等)を明らかにし、その解決策を考察する。

★ テーマや講演要旨については若干の変更がある場合もあります。

皆様のご出席をお待ちいたしております。

以上